

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

— 平成 1 3 年 5 月 調査結果 —

(平成 1 3 年 5 月 3 1 日)

○調査期間：平成 1 3 年 5 月 1 8 日～2 4 日

○調査対象：全国の 3 9 6 商工会議所が 2 6 1 7 業種組合等にヒアリング  
(内訳) 建設業 3 8 7 製造業 6 3 4 卸売業 2 3 7  
小売業 7 5 1 サービス業 6 0 8

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算：( 好転 ) - ( 悪化 )      売上：( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 / 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

依然として続く先行き不透明感

- 5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業および小売業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準（▲48.6）よりマイナス幅が0.3ポイント縮小して▲48.3となった。昨年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は、概ね横ばい傾向で推移し、その後10月以降は7ヵ月連続してマイナス幅拡大が続いていたが、今月は8ヵ月ぶりにマイナス幅縮小となった。一部の小売業などからは、ゴールデンウィーク期を中心に売上増といった声が聞かれるものの、全体としては、業況の悪化傾向は変わらず、先行き不透明感が広がっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

建設業では、引き続き「公共工事はほとんどない状態。民間工事も利益が出ないものがほとんど」（土木工事）、「受注競争が激しく、採算割れを起こしている」（建築工事）、「マンション建設費等の価格下落が続いている」（一般工事）など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、今年度の公共工事の早期発注を期待する声がある一方、「緊縮財政の折、発注増が見込めない」（管工事）との声も寄せられている。

製造業では、昨年11月以降、業況の悪化傾向が続いており、「加工賃単価が安く、採算が苦しい」（織物製外衣製造）、「納品後の値引き強要、海外調達の増加により先行き受注が不安」（暖房装置・配管工事用附属品製造）、「仕事があっても、取引先の値引要求が強く採算割れになる」（金属加工機械製造）、「受注回復の兆しは見られない」（電子部品製造）など厳しさを訴える声が寄せられている。

卸売業では、「メーカーとの直接取引の増加、景気低迷による消費減少により厳しい状況」（総合卸）、「価格競争による利益率の低下」（衣服・日用品卸）、「取引先の倒産・廃業が相次ぎ、資金繰りが厳しい」（繊維品卸）、「大型店が安値で販売しているため、業者まで購入している」（肥料卸）など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられる一方、「一部野菜が高値取引された結果、金額ベースで前年を上回った」（農畜産水産物卸）といった声も寄せられた。

小売業では、「消費者の低価格志向や郊外型大型店の出店等により、一層厳しい環境になっている」（百貨店）、「競争激化により、商品単価が下落している。また、消費者が最低限必要な商品しか買わない等により、全体的に客単価も落ちている」（百貨店）、「大型店の影響で売上が落ちている」（商店街）など、引き続き厳しい業況を訴える声がある一方、「若者向けの車を中心に好調。ここにきて、買い替え需要の高まりから、普通自動車にも動きが出始めている」（自動車小売）、「天候に恵まれ、夏物商品が動いている」（商店街）、「ゴールデンウィークや日曜日に人が集まり、良い傾向にある」（百貨店）、「若者向けの店（衣料品・携帯電話）の売上が伸びている」（商店街）といった声も寄せられている。

サービス業では、「夏に向けてのニューヘアースタイルで需要掘り起こしに期待」（美容）、「大型連休に予約が相当数あり、少し回復の兆しが表れた」（旅館）といった声が寄せられる一方で、「値下げを売りにする外食産業が多くなり、高いイメージの寿司店から消費者が遠ざかっている」（すし店）、「ロードサイド店が立て続けにオープンし、競争が激化」（食堂・レストラン）、「低価格競争時代に突入し、売上減少、収益悪化」（旅館）との厳しい業況を訴える声も多く寄せられた。

売上面では、サービス業、卸売業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全業種合計の売上DIはマイナス幅が0.6ポイント拡大して▲42.5となった。採算面では、卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて8.0ポイントと大きく縮小したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が0.8ポイント縮小して▲42.8となった。

- 向こう3ヵ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲41.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲27.2)に比べて極めて厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、今年度公共工事の早期執行および今後の公共工事を巡る見直し議論の行方、個人消費の動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

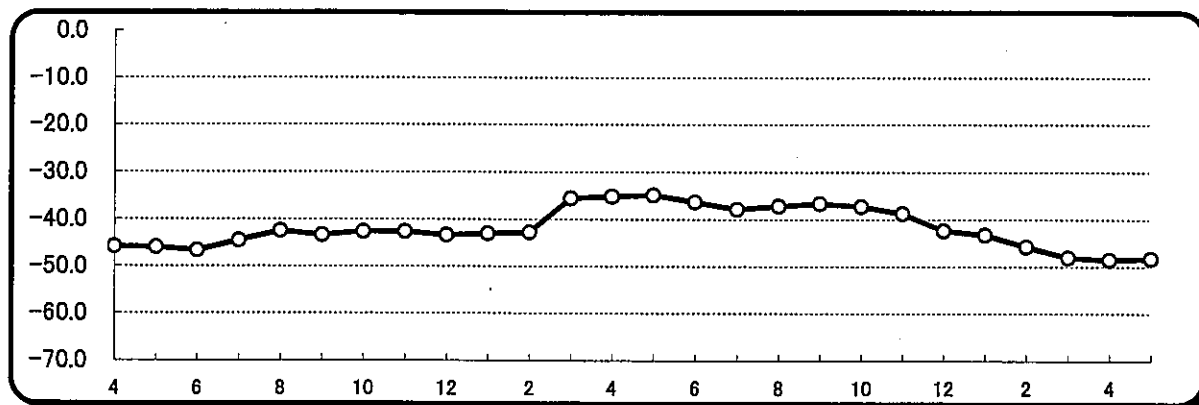
- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、卸売業および小売業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準(▲48.6)よりマイナス幅が0.3ポイント縮小して▲48.3となった。昨年3月に大幅な(7.2ポイント)マイナス幅縮小が見られた後は、概ね横ばい傾向で推移し、その後10月以降は7ヵ月連続してマイナス幅拡大が続いていたが、今月は8ヵ月ぶりにマイナス幅縮小となった。一部の小売業などからは、ゴールデンウィーク期を中心に売上増といった声が聞かれるものの、全体としては、業況の悪化傾向は変わらず、先行き不透明感が広がっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。
- 向こう3ヵ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲41.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲27.2)に比べて極めて厳しい見方となっている。

業況DI(前年同月比)の推移

	12年 12月	13年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲42.4	▲43.3	▲45.8	▲48.1	▲48.6	▲48.3	▲41.4 (▲27.2)
建設	▲58.0	▲57.5	▲56.7	▲60.0	▲57.7	▲59.3	▲49.1 (▲34.4)
製造	▲28.3	▲31.0	▲38.0	▲44.2	▲46.7	▲46.8	▲44.1 (▲22.0)
卸売	▲44.9	▲45.6	▲48.8	▲52.8	▲54.8	▲51.3	▲40.4 (▲29.8)
小売	▲48.9	▲48.0	▲50.3	▲50.1	▲50.7	▲47.6	▲38.2 (▲30.6)
サービス	▲38.4	▲40.3	▲40.2	▲39.6	▲38.7	▲41.9	▲37.3 (▲22.5)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年5月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



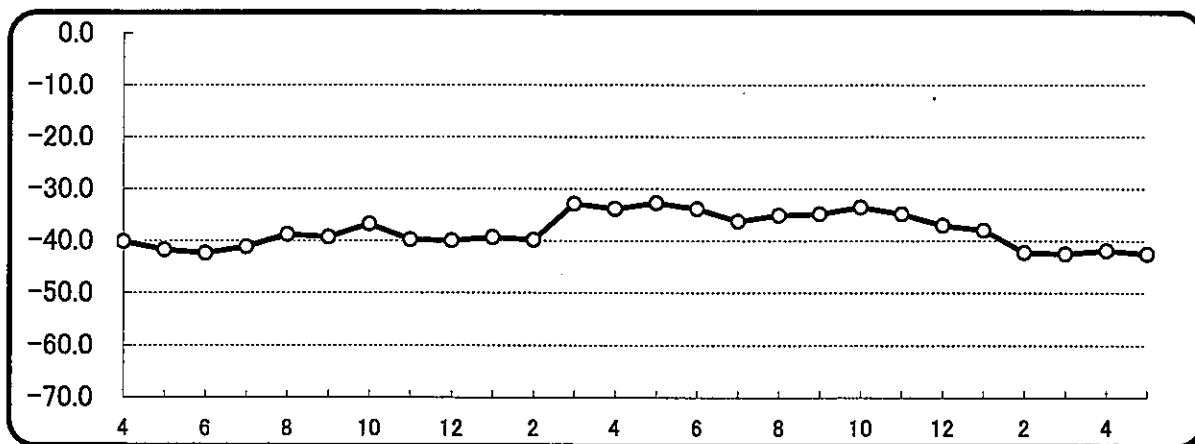
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、サービス業、卸売業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全業種合計の売上DIはマイナス幅が0.6ポイント拡大して▲42.5となった。
- 向こう3ヵ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲35.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲21.9）に比べて極めて厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	12年 12月	13年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 37.1	▲ 38.0	▲ 42.3	▲ 42.5	▲ 41.9	▲ 42.5	▲ 35.7 (▲ 21.9)
建設	▲ 50.2	▲ 47.6	▲ 52.5	▲ 53.5	▲ 51.6	▲ 53.1	▲ 43.7 (▲ 21.3)
製造	▲ 17.1	▲ 23.7	▲ 28.9	▲ 33.4	▲ 39.2	▲ 38.9	▲ 38.0 (▲ 13.1)
卸売	▲ 39.1	▲ 39.4	▲ 43.8	▲ 44.2	▲ 44.5	▲ 46.2	▲ 37.8 (▲ 21.3)
小売	▲ 49.6	▲ 45.9	▲ 51.0	▲ 48.5	▲ 45.6	▲ 44.5	▲ 34.1 (▲ 32.2)
サービス	▲ 33.9	▲ 36.6	▲ 38.7	▲ 36.6	▲ 31.6	▲ 35.3	▲ 28.7 (▲ 19.3)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



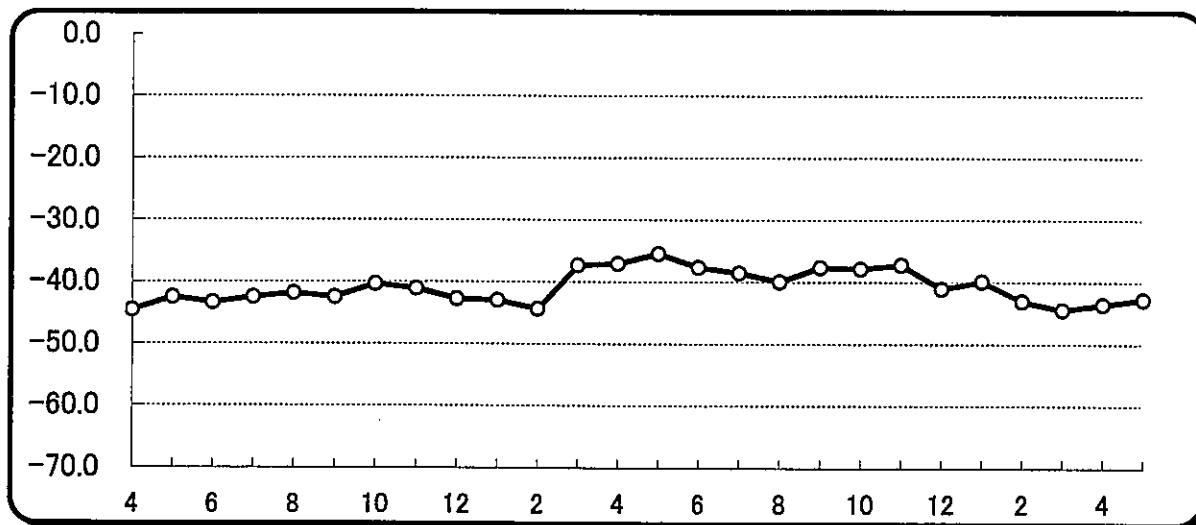
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて8.0ポイントと大きく縮小したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が0.8ポイント縮小して▲42.8となった。
- 向こう3ヵ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲35.9と、昨年同時期の先行き見通し(▲27.4)に比べて厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	12年 12月	13年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲41.1	▲39.9	▲43.1	▲44.5	▲43.6	▲42.8	▲35.9 (▲27.4)
建設	▲58.0	▲53.8	▲57.8	▲59.4	▲58.4	▲58.5	▲48.7 (▲37.1)
製造	▲30.1	▲33.6	▲38.8	▲42.5	▲43.7	▲43.8	▲40.0 (▲22.6)
卸売	▲41.0	▲36.3	▲38.9	▲46.6	▲46.5	▲38.5	▲35.3 (▲26.6)
小売	▲46.8	▲44.2	▲46.3	▲44.2	▲42.9	▲41.1	▲31.5 (▲30.5)
サービス	▲34.9	▲33.2	▲35.5	▲35.5	▲32.4	▲34.5	▲28.2 (▲22.7)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 12月	13年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	▲ 28.5	▲ 26.8	▲ 27.9	▲ 30.3	▲ 29.0	▲ 30.1	▲ 27.5
建設	▲ 38.3	▲ 34.7	▲ 34.4	▲ 35.9	▲ 37.0	▲ 39.2	▲ 37.7
製造	▲ 27.6	▲ 24.5	▲ 26.9	▲ 30.7	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 29.2
卸売	▲ 25.2	▲ 20.9	▲ 23.7	▲ 25.4	▲ 24.4	▲ 29.5	▲ 25.4
小売	▲ 28.9	▲ 28.5	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 29.5	▲ 26.0	▲ 23.7
サービス	▲ 23.1	▲ 24.3	▲ 24.7	▲ 29.5	▲ 24.0	▲ 29.2	▲ 23.6

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】小売業を除き悪化超感が強まる。特に、建設業では3ヵ月連続で悪化超感が強まる。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	12年 12月	13年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	▲ 0.2	▲ 2.1	▲ 1.7	0.3	4.6	3.4	0.5 (▲ 2.0)
建設	▲ 1.5	▲ 3.5	▲ 4.6	0.0	2.5	6.1	1.4 (0.3)
製造	▲ 4.9	▲ 5.6	▲ 4.4	▲ 7.8	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 6.1 (▲ 7.6)
卸売	7.1	6.3	1.2	4.3	9.7	5.8	3.9 (3.4)
小売	6.8	4.8	6.4	8.5	13.6	9.2	6.4 (1.5)
サービス	▲ 6.1	▲ 9.1	▲ 7.8	▲ 2.3	1.3	1.0	▲ 1.3 (▲ 4.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業、小売業およびサービス業で下落超感弱まる。他方、建設業では、3ヵ月連続で下落超感が強まる。

【先行き見通しD I】全産業で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 12月	13年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 11.0	▲ 10.6	▲ 11.1	▲ 12.1	▲ 11.5	▲ 12.8	▲ 12.3 (▲ 11.1)
建設	▲ 20.9	▲ 22.6	▲ 22.4	▲ 22.5	▲ 28.0	▲ 28.9	▲ 25.5 (▲ 19.5)
製造	▲ 13.0	▲ 10.0	▲ 11.2	▲ 16.1	▲ 11.9	▲ 14.9	▲ 12.9 (▲ 13.2)
卸売	▲ 10.9	▲ 15.0	▲ 19.1	▲ 13.6	▲ 14.8	▲ 12.2	▲ 13.2 (▲ 11.3)
小売	▲ 6.4	▲ 8.6	▲ 6.0	▲ 6.5	▲ 5.9	▲ 7.5	▲ 10.0 (▲ 8.9)
サービス	▲ 7.7	▲ 3.9	▲ 6.2	▲ 6.7	▲ 5.1	▲ 6.1	▲ 4.4 (▲ 6.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業を除き過剰超感が強まる。

【先行き見通しD I】建設業、卸売業および小売業で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年5月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「5月に入って公共工事（県・市）の発注があり、今後に期待する」（小浜・一般工事）、「天候に恵まれ、夏物商品が動いている」（鹿児島・商店街）、「若者向けの店（衣料品・携帯電話）の売上が伸びている」（帯広・商店街）、「夏に向けてのニューヘアスタイルで需要掘り起こしに期待」（美濃加茂・美容）といった今後への期待を寄せる声がある一方で、依然として、先行きの業況に関する不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業からは、「公共工事はほとんどない状態。民間工事も利益が出ないものがほとんど」（各務原・土木工事）、「緊縮財政の折、公共工事発注増が見込めない」（倉敷・管工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「海外調達の増加により先行き受注が不安」（姫路・暖房装置・配管工事用附属品製造）、「受注回復の兆しは見られない」（塩尻・電子部品製造）、「6～8月の先行き見込み受注に増加見込めず」（北上・電気機械器具製造）といった声がある。また、卸売業・小売業からは、「メーカーとの直接取引の増加、景気低迷による消費減少により厳しい状況」（帯広・総合卸）、「取引先の倒産・廃業が相次ぎ、資金繰りが厳しい」（宇都宮・繊維品卸）、「消費者の低価格志向や郊外型大型店の出店等により、一層厳しい環境になっている」（山形・百貨店）、「大型店の影響で売上が落ちている」（茅ヶ崎・商店街）などの声が寄せられている。サービス業からは、「値下げを売りにする外食産業が多くなり、高いイメージの寿司店から消費者が遠ざかっている」（川崎・すし店）、「依然として見通し暗く、先行き不安」（水戸・食堂・レストラン）などの声が寄せられている。

○ 単価下落

建設業から「受注競争が激しく、採算割れを起こしている」（姫路・建築工事）、「マンション建設費等の価格下落が続いている」（横浜・一般工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「加工賃単価が安く、採算が苦しい」（湯沢・織物製外衣製造）、「仕事があっても、取引先の値引要求が強く採算割れになる」（赤穂・金属加工機械製造）などの声が寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「価格競争による利益率の低下」（浜松・衣服・日用品卸）、「競争激化により、商品単価が下落している。また、消費者が最低限必要な商品しか買わない等により、全体的に客単価も落ちている」（岡崎・百貨店）、「低価格競争時代に突入し、売上減少、収益悪化」（伊東・旅館）などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 3月	先行き不透明感	採算悪化	家電リサイクル法
13年 4月	先行き不透明感	単価下落	
13年 5月	先行き不透明感	単価下落	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。



(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月のマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。引き続き「公共工事はほとんどない状態。民間工事も利益が出ないものがほとんど」(土木工事)、「受注競争が激しく、採算割れを起こしている」(建築工事)、「マンション建設費等の価格下落が続いている」(一般工事)など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、今年度の公共工事の早期発注を期待する声がある一方、「緊縮財政の折、発注増が見込めない」(管工事)との声も寄せられている。
製 造	売上D Iは7ヵ月ぶりに前月水準に比べてマイナス幅縮小となったものの、業況・採算D Iについては、7ヵ月連続でマイナス幅が拡大している。「加工賃単価が安く、採算が苦しい」(織物製外衣製造)、「納品後の値引き強要、海外調達増加により先行き受注が不安」(暖房装置・配管工事用附属品製造)、「仕事があっても、取引先の値引要求が強く採算割れになる」(金属加工機械製造)、「受注回復の兆しは見られない」(電子部品製造)など厳しさを訴える声も寄せられている。
卸 売	売上D Iは5ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したが、業況・採算D Iはともにマイナス幅が縮小している。「メーカーとの直接取引の増加、景気低迷による消費減少により厳しい状況」(総合卸)、「価格競争による利益率の低下」(衣服・日用品卸)、「取引先の倒産・廃業が相次ぎ、資金繰りが厳しい」(繊維品卸)、「大型店が安値で販売しているため、業者まで購入している」(肥料卸)など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられる一方、「一部野菜が高値取引された結果、金額ベースで前年を上回った」(農畜産水産物卸)といった声も寄せられた。
小 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「消費者の低価格志向や郊外型大型店の出店等により、一層厳しい環境になっている」(百貨店)、「競争激化により、商品単価が下落している。また、消費者が最低限必要な商品しか買わない等により、全体的に客単価も落ちている」(百貨店)、「大型店の影響で売上が落ちている」(商店街)など、引き続き厳しい業況を訴える声がある一方、「若者向けの車を中心に好調。ここにきて、買い替え需要の高まりから、普通自動車にも動きが出始めている」(自動車小売)、「天候に恵まれ、夏物商品が動いている」(商店街)、「ゴールデンウィークや日曜日に人が集まり、良い傾向にある」(百貨店)、「若者向けの店(衣料品・携帯電話)の売上が伸びている」(商店街)といった声も寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iとも前月のマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「夏に向けてのニューヘアスタイルで需要掘り起こしに期待」(美容)、「大型連休に予約が相当数あり、少し回復の兆しが表れた」(旅館)といった声も寄せられる一方で、「値下げを売りにする外食産業が多くなり、高いイメージの寿司店から消費者が遠ざかっている」(すし店)、「ロードサイド店が立て続けにオープンし、競争が激化」(食堂・レストラン)、「低価格競争時代に突入し、売上減少、収益悪化」(旅館)との厳しい業況を訴える声も多く寄せられた。

(参考)

【ブロック別概況】

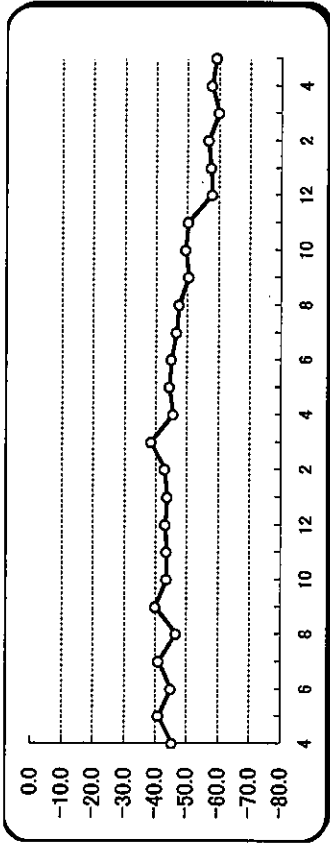
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。近畿、中国および九州の各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、他の各ブロックでマイナス幅が縮小した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（6月～8月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

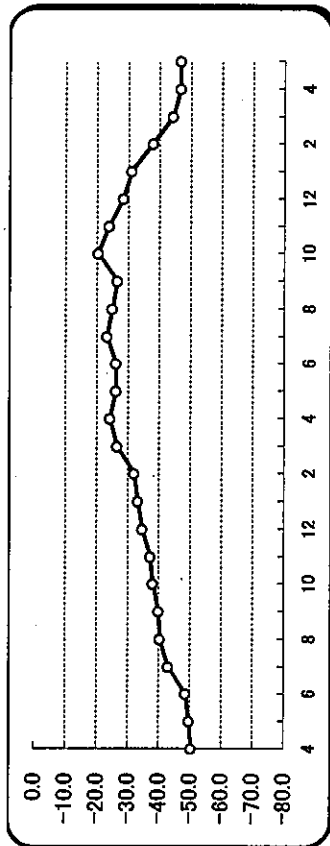
	12年 12月	13年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	▲ 42.4	▲ 43.3	▲ 45.8	▲ 48.1	▲ 48.6	▲ 48.3	▲ 41.4 (▲ 27.2)
北 海 道	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 40.7	▲ 40.3	▲ 44.5	▲ 43.5	▲ 32.8 (▲ 30.1)
東 北	▲ 39.3	▲ 45.3	▲ 54.8	▲ 53.3	▲ 50.9	▲ 50.0	▲ 38.1 (▲ 29.7)
北陸信越	▲ 42.4	▲ 47.9	▲ 36.4	▲ 45.7	▲ 48.8	▲ 43.5	▲ 37.3 (▲ 17.1)
関 東	▲ 37.8	▲ 41.8	▲ 41.6	▲ 46.9	▲ 41.1	▲ 39.5	▲ 32.5 (▲ 24.2)
東 海	▲ 40.9	▲ 37.0	▲ 45.4	▲ 46.7	▲ 53.3	▲ 49.1	▲ 44.1 (▲ 26.3)
近 畿	▲ 47.3	▲ 43.0	▲ 53.2	▲ 51.5	▲ 56.2	▲ 60.3	▲ 56.1 (▲ 32.1)
中 国	▲ 44.5	▲ 42.8	▲ 45.3	▲ 50.6	▲ 49.7	▲ 54.2	▲ 53.0 (▲ 30.5)
四 国	▲ 48.6	▲ 57.8	▲ 58.6	▲ 51.4	▲ 60.9	▲ 57.4	▲ 52.8 (▲ 43.2)
九 州	▲ 43.7	▲ 39.5	▲ 41.2	▲ 45.8	▲ 44.6	▲ 47.2	▲ 35.6 (▲ 22.0)

# 業況D I (前年同月比)の推移 (全国)

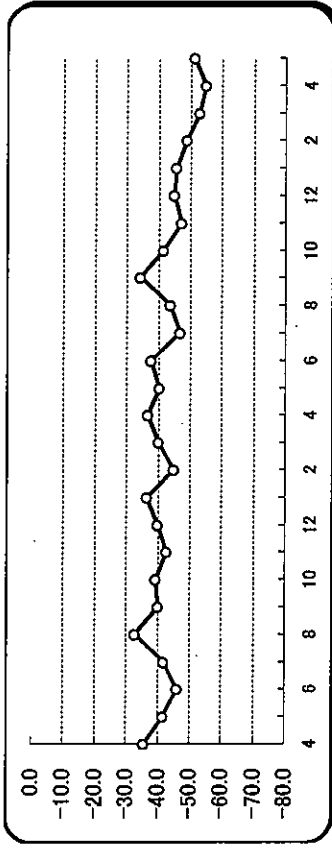
## 建設業



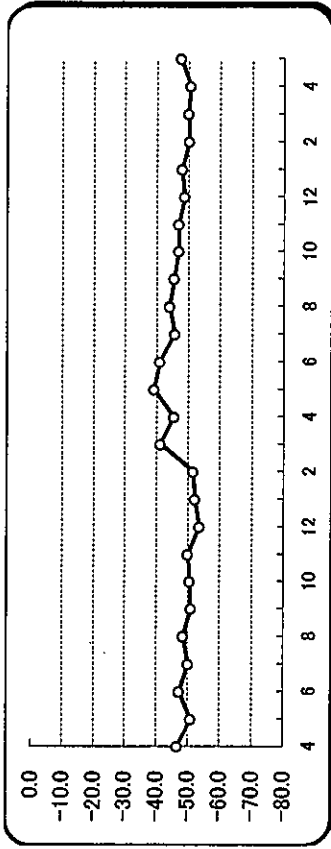
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

